

2026 年 5 月 8 日

世界 LNG 動向#124 2026 年 4 月

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
橋本 裕

はじめに

2026 年 3 月、北東アジアの LNG 輸入は、下表の通りだった。

日本	587 万トン	88,371 円/トン・10.85 米ドル/100 万 Btu
中国	395 万トン	8.69 米ドル / 100 万 Btu
韓国	384 万トン	9.98 米ドル / 100 万 Btu
台湾	210 万トン	11.29 米ドル / 100 万 Btu
合計	1576 万トン	10.16 米ドル / 100 万 Btu (加重平均)

また、日本が 15 万トン、韓国が 27 万トン、それぞれ中国から輸入した。

なお、2026 年第 1 四半期については、日本は 1793 万トンの LNG を輸入し、前年同期比 1.5%、27 万トンの増加となった。中国は 1442 万トン・6.4%減となった。北東アジア 4 市場合計では 5042 万トンを入力したが、3.6%減・58 万トン減となった。この期間中の 4 市場の加重平均輸入価格は 100 万 Btu 当たり 10.04 米ドルだった。

さらに、2025 年度ベースでは、日本の LNG 輸入量は 6524 万トン、加重平均価格はトン当たり 85,509 円、100 万 Btu 当たり 10.95 米ドルとなった。

日本の LPG 輸入に関しては、2026 年第 1 四半期に 304 万トンを入力したが、このうち 96%が米国からの輸入であった。

中東湾岸ガルフ地域からの LNG 供給が中断していることにより、世界各地の LNG 消費企業がスポット市場で LNG を求めていることも一因として、アジアのスポット LNG 価格は高水準に留まっている。

北米・南米、パプアニューギニアで LNG 生産・輸出プロジェクト開発に前進が観察されみられている。ベトナム、オーストラリアでは LNG 消費側のプロジェクトが進展している。

QatarEnergy ・ ExxonMobil 間の合弁事業 Golden Pass LNG 社は、2026 年 4 月 22 日、米テキサス州の LNG 輸出設備より、初の LNG 輸出カーゴの積み込み・出航を発表した。Golden Pass LNG は年間 1800 万トンの LNG を輸出する見込み。

[アジア太平洋]

JOGMEC (独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構) は、2026 年 4 月 1 日、LNG 等の中長期的な安定供給確保のための新たな取組を発表した。エネルギー安定供給に資する一定要件を満たすプロジェクトを推進する日本企業に対し、投資の早期回収や、JOGMEC 出資の早期買い戻しを可能とするインセンティブを設定する出資制度を新設する。LNG 等の中長期的な安定供給確保に資するプロジェクトに対し、日本企業による LNG 等の引取量、日本向け契約数量に応じて債務保証料率を引き下げる等、インセンティブを強化している。

石油資源開発株式会社 (JAPEX) は、2026 年 4 月 17 日、中東湾岸から 2026 年度第 1 四半期に調達する計画であった LNG カーゴ 2 隻分について、他産地から代替カーゴをスポット調達済み、当該 LNG の調達コストが中東情勢緊迫化前に比べ大幅に上昇する見込みであることを明らかにした。天然ガス供給や電力供給に支障が生じる懸念はないとしている。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇や円安は、増収増益の要因となる一方、計画外のスポット調達によるコスト増加およびガルフ油田の生産操業停止は、大幅な減益要因となる可能性があるとした。

東京ガス株式会社は、2026 年 4 月 27 日、物価上昇に伴う諸経費の高騰や、近年のガス販売量の減少等による影響を踏まえ、料金単価の見直しを 2026 年 10 月 1 日に実施することを発表した。

株式会社 JERA は、2026 年 4 月 24 日、東京電力パワーグリッド株式会社による 2026 年度夏季追加供給力公募 (kW 公募) の落札者に選定されたことを発表した。2025 年 12 月 23 日から 2026 年 2 月 25 日の間、東京電力パワーグリッドのサービスエリアにおいて追加供給力 120 万 kW が募集された。JERA は、長期計画停止中の袖ヶ浦火力発電所 2 号機により応札し、落札した。

東京電力株式会社は、2026 年 4 月 16 日、柏崎刈羽原子力発電所 6 号機が原子力規制委員会より、営業運転を再開したことを発表した。

株式会社 INPEX、株式会社商船三井は、2026 年 4 月 17 日、株式会社 INPEX シッピング・MOL Encean Pte. Ltd. 社間で、新造 LNG 船 1 隻の長期定期傭船契約を締結したことを発表した。本船は、韓国ハンファオーシャン社の巨済造船所にて建造しており、同月に竣工後、INPEX のポートフォリオ向け LNG 輸送に活用される予定としている。

大阪ガス株式会社は、2026 年 4 月 21 日、自社初となる Ship to Ship 方式による船舶向け LNG 燃料供給 (LNG バンカリング) を開始したことを発表した。これにより同社は、主要 3 方式での船舶向け LNG 燃料供給が可能となった。JFE スチール株式会社

の西日本製鉄所福山地区(広島県福山市)において、LNG を燃料とする鐵鋼原料船に対し、LNG バンカリング船「SETO AZURE」(セト アズール)から LNG 燃料を供給した。関係会社 大阪湾 LNG シッピング株式会社所有の同船は、4 月 9 日に竣工した。

川崎汽船株式会社は、2026 年 4 月 1 日、バイオ LNG (液化バイオメタン) 燃料の長期調達契約を締結し、LNG 燃料自動車船における継続的な使用を開始したことを発表した。今回の調達契約により、年間約 60,800 トンの温室効果ガス (GHG) を削減できる見込みとしている。今回使用するバイオ LNG は ISCC-EU 認証を取得しており、欧州再生可能エネルギー指令 (RED) に準拠した持続可能性が担保されているとしている。

常石造船株式会社は、2026 年 3 月 31 日、自社常石工場で世界初の LNG 二元燃料ばら積み貨物船 KAMSARMAX を竣工したと発表した。特徴の一つが、船尾甲板上に搭載した LNG 燃料タンクで、独立型圧力タンク (タイプ C) 方式を採用したとしている。

千代田化工建設株式会社、日本郵船株式会社、日本郵船グループの Knutsen NYK Carbon Carriers AS (KNCC) は、2026 年 3 月 31 日、CCS 分野におけるグローバルな案件の協業を目的として、基本合意書を締結したことを発表した。輸送方式の最適化を含め、国内外における CCS プロジェクトを対象として CCS 事業機会の拡大を図り、コンセプトスタディー、フィージビリティスタディー (FS)、基本設計 (Pre-FEED/FEED)、設計・調達・建設 (EPC) といった各段階における協業の可能性を模索するとしている。

株式会社 INPEX ならびに関東天然瓦斯開発株式会社の合弁会社である首都圏 CCS 株式会社は、2026 年 4 月 15 日、千葉県九十九里沖での CCS を推進するため、特定区域での二酸化炭素 (CO₂) の貯留に適した地層の存在を確認することを目的とした試掘を行う事業者として、経済産業大臣より試掘の許可を受けたと発表した。CO₂ の貯留事業に関する法律 (CCS 事業法) に基づき、2025 年 9 月に経済産業省が千葉県九十九里沖の一部区域を特定区域として指定し、当該特定区域における試掘の許可申請の受付を開始したことを受けて、首都圏 CCS がこれに応募し、今般、その許可を受けた。首都圏 CCS 事業は日本製鐵株式会社東日本製鐵所君津地区および京葉臨海工業地帯の複数産業を排出源とする CO₂ を回収、パイプラインで輸送の上、千葉県九十九里沖の海域に貯留する CCS 事業で、首都圏 CCS は、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) より受託した「先進的 CCS 事業に係る設計作業等」において 2030 年初頭までの貯留開始に向けた取り組みを進めている。

2026 年 4 月 1 日、韓国の「第 5 次資源安全保障協議」は、同国産業通商部、行政安全全部、気候エネルギー環境部、国土交通部など 15 の関係省庁と韓国石油公社 (KNOC)、韓国ガス公社 (KOGAS)、韓国石油管理院など 9 つの関連機関が参加した中、資源セキ

ユリティ警戒レベルを、石油について「注意」から「警戒」へ、天然ガスについては「注視」から「注意」に格上げすることを決定した。

Excelerate Energy 社は、2026 年 3 月 31 日、韓国蔚山の現代重工 (HHI) 造船所で、自社最新 FSRU (浮体貯蔵・気化設備) *Excelerate Acadia* 命名を発表した。

韓国の非営利組織 SOFC (Solutions for Our Climate) は、2026 年 4 月 7 日、韓国の 3 公的銀行を相手取り、LNG 輸送船舶への金融支援に異議を申し立てた。この訴状では、必要な環境面・人権面のデューデリジェンスを怠り、海運業界による生態系損傷、メタン排出を無視していると非難した。監督不行き届きにより、グローバル気候目標と矛盾する座礁化する懸念ある資産に公的資金を貼り付ける金融リスクを生み出している、と SOFC は主張している。透明性あり科学に基づく投資の枠組を用い、化石燃料輸送船舶への新たな資金調達を止めることを求めている。

NDRC (中华人民共和国国家发展和改革委员会) による 2026 年 4 月 30 日の情報によると、中国の 2026 年 1-3 月の天然ガス消費量は 1034 億 m³、前年同期比 2.2%減となった。中国の NBS (国家统计局) によると、2026 年 1-3 月のガス生産は前年同期比 3.0%増の 68.1bcm (681 億 m³) だった。同期間に LNG 輸入は、海关总署によると前年同期比 6.4%減の 1442 万トン、パイプラインガス輸入は 1.3%減の 1372 万トン、総計は 4.0%減の 2815 万トンだった。

中国石油化工股份有限公司 (中国石化) は、2026 年 3 月 20 日、天津 LNG 基地第 3 期第 1 段階向けに調達した資金の残額 41.7 億人民元を、西南天然气开发 (西南天然ガス開発) プロジェクト (40 億人民元) および茂名分公司 (茂名支社) 精製転換・高度化およびエチレン高度化プロジェクト (1.07 億人民元) に再配分すると発表した。

中国の Zhejiang Energy (浙能集団) は、2026 年 4 月 26 日、温州 LNG 基地で 25 日に、bp から長期契約に基づく最初のカーゴを中米から受け入れたと発表した。

上海石油天然气交易中心 (SHPGX) の 2026 年 4 月 9 日公告によると Shenzhen Gas (深能 (深圳) 燃气贸易有限公司) が月内のスポットパイプラインガスの調達を求めた。

2026 年 4 月 6 日の台湾經濟部の発表によると、Taipower (台湾電力公司) は、天然ガス配分のフレキシビリティを増し、電力供給を確保するため、一時的に Mailiao (麥寮) 石炭火力発電設備 1 号機・3 号機からの送電を増加する、とのこと。

台湾經濟部 (MOEA) は、2026 年 4 月 14 日、2 月 28 日の中東紛争勃発以降、政府は配給を効果的に管理しており、電力・天然ガス不足は発生していない、と説明した。MOEA は 3 月 2 日にエネルギー緊急対応タスクフォースを発動した。MOEA は、台湾の LNG 在庫規制、供給の配分、危機対応能力とも諸国のそれよりも優れていると主張

している。ホルムズ海峡封鎖可能性に備え、中油公司は「引き渡しの前倒し」「アジアでのカーゴスワップ」「スポット市場調達」の 3 段階での緊急時枠組を実施してきた。国内供給を中断なく確保すべく、4-5 月分のガス供給は確保されており、6 月分はまもなく完了、7 月以降分の手配も開始されている。電力供給に関して、中油と台電会社が早期警鐘メカニズムを有しており、停電リスクは発生しない、と MOEA は強調した。

Burckhardt Compression 社は、2026 年 4 月 21 日、タイ、台湾の LNG 基地プロジェクト向けに、コンプレッサー・ソリューションを提供する複数の受注を確保したことを発表した。両基地合計で、ボイルオフガス (BOG) 対応のため Laby® コンプレッサー 8 基、最小送出対応の 1 基となる。

日本郵船株式会社は、2026 年 4 月 22 日、自社グループの船舶管理会社であるニミック シップマネジメント社 (NiMiC Ship Management Co., Ltd. = 本社台湾、NiMiC) が船長として登用した林怡君氏が、NiMiC が管理する LNG 運搬船 Taitar No.4 において、NYK グループ初の女性船長としての職務を開始したことを発表した。

ERIA (Economic Research Institute for ASEAN and East Asia) は、2026 年 4 月 21 日、*"From Shock to Strategy: Strengthening ASEAN Energy Security and Economic Resilience after the Strait of Hormuz Disruption"* と題するレポートを発表した。ホルムズ海峡の封鎖が、ASEAN 地域のエネルギー・経済安定にとっての巨大な構造的ショックとなっている様相を検証している。ASEAN 地域は輸入燃料、輸入肥料に大きく依存しており、今回の危機は食糧セキュリティを脅かしている。現在の市場志向のエネルギーシステムは、供給支障に対処するバッファを欠き、各国は脆弱となっている。このようなリスクを緩和するため、バラバラな各国政策から統合された地域協力へのシフトを推奨している。提案されている戦略としては、共有される緊急石油リザーブ、電力・ガス網統合、長期レジリエンス構築のための国内 (域内) 再生可能エネルギーへの投資が含まれている。

フィリピン大統領府広報は、2026 年 4 月 8 日、米国・イラン間の 2 週間の停戦により、フィリピンは追加燃料供給を確保し、市場を安定させる一助となるかもしれない、とした。

フィリピンのエネルギー省 (DOE) は、2026 年 4 月 7 日、石油類のサービス契約 (PSCs) 2 本が締結されたことを発表した。セブ島 Alegria 石油・ガス田開発、レイテ島自然水素資源探査である。これにより現政権下で 12 件の PSCs が締結されたこととなる。サービス契約 No. 89 (SC 89) はセブ島南部陸上で、Alegria 石油・ガス田を Texcal Energy Mahato 社のオペレーターシップにより開発・生産するものとなる。サービス契

約 No. 90 (SC 90) は、Matahio Energy Philippines に、Ophiolite Energy とのパートナーシップで与えられ、レイテ島陸上天然水素資源の開発となる。

ベトナム電力公社 EVN は、2026 年 3 月 27 日、Hiệp Phước 発電会社との間で、Hiệp Phước LNG 発電設備フェーズ 1 より、電力購入契約 (PPA) を 26 日に締結したことを発表した。同国で Nhơn Trạch 3 & 4 に次ぐ LNG 発電部門での 2 件目の PPA で、輸入 LNG を用いる発電設備プロジェクト開発の優遇メカニズムに関する 2025 年 3 月 3 日付 No. 56/2025/ND-CP 指令、(2025 年 5 月 8 日付 No. 100/2025/ND-CP 指令により修正) により実施される最初の LNG PPA となる。Hiệp Phước フェーズ I は、建設・操業・所有 (BOO) 方式で実施され、設置容量は 1.2 GW となる。同プロジェクトはドイツ Siemens により供給される先進型ガスタービン技術を用いる。

ベトナム PV Gas (PetroVietnam Gas) は、2026 年 4 月 3 日、EVN (Vietnam Electricity Group)、PetroVietnam 子会社 PV Power との間でそれぞれ LNG 供給契約を締結したことを発表した。PV Gas はハティン省で計画している Vũng Áng LNG 基地から、EVN の Quảng Trạch II ・ Quảng Trạch III 発電設備に、2029 年 4 月 30 日から LNG を供給するとしている。同基地は 2029 - 2030 年稼働開始見込みで当初容量年間 100 - 300 万トンを持つ見込み。Vũng Áng 基地は計画されている Vũng Áng III 発電設備にも供給する。

ベトナム PV Gas (PetroVietnam Gas) は、2026 年 4 月 7 日、Thị Vải LNG 基地容量を設計容量の時間当たり 171 トンから、288 トンに増加した、と述べた。

ベトナム PV GAS (PetroVietnam Gas) は、2026 年 4 月 9 日、同月はそこまでに LNG 2 カargo合計 60,000 トンを受け入れ、2026 年初からの累計受入量が 123,000 トンを超えたことを発表した。4 月 3 日に同年 2 隻目となるカargoをマレーシアから DAPENG PRINCESS により、Thị Vải LNG 基地で、32,700 トンを受け入れた。8 日、3 隻目、KOOL BLIZZARD によりブルネイから 27,300 トンを受け入れた。

ベトナム PV GAS (PetroVietnam Gas) は、2026 年 4 月 16 日、Thị Vải 基地向けの 5 月 27 日 - 6 月 6 日の DES カargo 1 隻を求める LNG カargo購入入札を通知した。

ベトナム PV Gas 社は、2026 年 4 月 29 日、オーストラリア産 LNG 71,000 トン、米国産 LPG 45,000 トンを輸入した、と述べた。発電用・工業用 LNG は、オーストラリアからの PACIFIC SUCCESS 船舶で受け入れた。PV Gas は 2026 年第 2 四半期分として、5 - 6 月の予定している 1 隻を含め追加調達を手配し続けているとしている。

Nebula Energy 子会社 AG&P LNG は、2026 年 4 月 21 日、ベトナム南部ブンタウ州 Cái Mép LNG 基地の 100%持分を買い取ることで合意したことを発表した。2024 年

に 49% を買い取っていた。Hải Linh 社が自社持分を処分する。Cái Mép LNG 基地は同社が開発し 2025 年に建設完了・試運転を行った。過去 12 ヶ月間に同基地は機械的に完成し、試運転、立ち上がりを行った。Cái Mép LNG 基地は、近くの Phú Mỹ 工業圏に接続し、ベトナム最大の発電所 Phú Mỹ ガス火力容量 3.9 GW とパイプラインでつながっている。メコン川デルタ近くに位置し、陸上タンク 3 基で 220,000 m³ 貯蔵容量、小規模船舶に再積み込みできるブレイクバルク能力を持ち、CNG・LNG トラック積み込みベイ 14 件を備えている。

ベトナム Vingroup は Hải Phòng での自国最大 4.8 GW LNG 火力発電所計画を中止、再生可能エネルギーに変更するとのこと。

CTCI 中鼎集團傘下企業 CTCI Thailand は、2026 年 4 月 29 日、PTT Global Chemical (PTTGC) ・ PE LNG 間の共同プロジェクトである Olefins 3 冷熱利用プロジェクト (OCP) により EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を確保したことを発表した。ラヨン県 Nongfab に、PTTGC のオレフィン設備と PE LNG の LNG 気化設備を結ぶ冷熱利用設備が建設される。PE LNG 基地の LNG 気化で発生する冷熱をオレフィン冷却の際に用いるため PTTGC 設備に移送することを可能とする両設備を連結する閉鎖循環型混合冷媒システムとなる。冷媒は熱エネルギーを PE LNG 基地に持ち帰り、LNG を温め天然ガスに転換するため使われる。このソリューションは、オレフィン冷却の動力源として電気に代替し、年間 60,000 トンの電力関連の CO₂ 排出を削減する。同プロジェクトは 2028 年完成を予定している。

シンガポール Rotary Engineering 社は、2026 年 4 月 9 日、Singapore LNG 社向けの第 3 栈橋 EPC (エンジニアリング・調達・建設・設置) 契約を受注したと発表した。

シンガポール・オーストラリア政府は、2026 年 4 月 10 日、経済強靱性・重要物資供給の共同声明を発表、石油製品、LNG 等の重要物資のフローを支援するコミットメントを再確認、調整協力の強化、効率的な国境・港湾管理プロセス、透明性、早期の協議により、物資・重要供給の迅速な動きを促進する協力を強化することに合意した。

JOGMEC (独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構) は、2026 年 4 月 6 日、マレーシア PETRONAS との間で、協力覚書 (MoC) を 3 月 27 日に締結したことを発表した。2023 年 3 月に締結した協力覚書をアップデートする新たな枠組みとして位置づけられる。

マレーシア PETRONAS 社、ENEOS Xplora 株式会社は、2026 年 4 月 30 日、Malaysia LNG Tiga 社への後者の再参加を公式に定める契約を締結したことを発表した。MLNG Tiga 合弁事業契約は 2023 年に満了したが、ENEOS は次の 10 年間につ

いて MLNG Tiga に 10%出資参加することとなる。

株式会社 INPEX は、2026 年 3 月 30 日、インドネシア PT Pertamina と 2023 年 7 月に締結した Masela 鉱区 Abadi LNG プロジェクト実施に関わる戦略的協業に関する MOU (覚書) の延長を行ったことを発表した。INPEX は Pertamina 子会社 PT Pertamina Hulu Energi (PHE) と同国および東南アジアにおける上流事業での協業に関する MOU を締結した。

Eni 社は、2026 年 4 月 20 日、インドネシア東カリマンタン沖 70 km 付近、Kutei 盆地 Ganal 鉱区で掘削した Geliga-1 探査井でガス資源を発見したことを発表した。ガス 5 Tcf、コンデンセート 3 億バレルの原始資源が初期的に推定されている。2023 年末 Geliga の南方 20 km での Geng North の発見、2025 年 12 月に発表された Konta-1 井での発見に続くものである。Geliga-1 の発見よりも先に、Gendalo ・ Gandang ガスプロジェクト (South Hub)、Geng North ・ Gehem ガス田 (North Hub) について FID (最終投資決定) がなされた。North Hub プロジェクトは、ガス日量 1 bcf、コンデンセート日量 90,000 バレルの処理容量を持つ新たに建造された FPSO、および既存の Bontang LNG 設備を活用することとなる。今回の発見は、未だ開発されていない Gula ガスの発見と隣接している。初期的な評価として、Geliga ・ Gula 資源の合計でガス日量 1 bcf、コンデンセート日量 80,000 バレルの生産容量を持つこととなり、進行中の North Hub プロジェクトの開発コンセプトを反映した Kutei 盆地第 3 の生産ハブを迅速モードで確立する可能性が開かれる。Bontang で North Hub 開発に対応して既に計画されているものに追加して液化容量の再開による追加的な若返りが検討されている。Geliga-1 発見は Ganal PSC 鉱区内にあるが、Eni 82%、Sinopec (中国石化) 18%の持分となっている。

インド石油類・天然ガス省は、2026 年 3 月 29 日、天然ガス供給に優先順位を付けており、家庭用 PNG パイプラインガス、輸送用 CNG 圧縮天然ガスには供給 100%が維持され、パイプライン網に接続されている工業用・商業用需要家は平均消費量の 80%を受け入れている現状であると述べた。尿素製造設備向け供給は 6 カ月平均の 70% - 75%で安定しており、追加 LNG カーゴ、LNG 気化ガスの調達が行われている、と述べた。都市ガス配給 (CGD) 企業は、その地理的エリアにおいて、商業用 LPG 確保への懸念に対処するため、レストラン、ホテル、食堂等の商業設備への PNG 接続を優先するよう政府から指示されている。

インド政府は、2026 年 4 月 6 日、肥料製造設備向けのガス供給総量を、利用可能な在庫量や予定されている LNG カーゴの到着を勘案して、現状の過去 6 ヶ月間の平均消

費量に対して 70%-75%から 90%に引き上げることを通知した。他の工業・商業部門には、都市ガス配給 (CGD) を通じての分を含めて、さらに 10%引き上げるとしている。

インドの石油・天然ガス省は、2026 年 4 月 15 日、西アジア動向に伴う各省横断の説明文書において、ここまでの対応を説明した。天然ガス (パイプラインガス、CNG)、LPG 供給に関して、いくつかの具体策を実施している。

インド Petronet LNG 社は、2026 年 4 月 1 日、Dahej 基地の年間 2250 万トンへの拡張が、稼働開始したことを発表した。Petronet LNG は同国 LNG 輸入の 75%を取り扱い、ガスの 33%を供給している。Petronet LNG は多角化にも動いており、Dahej での LNG・化学設備を 2028 年 6 月稼働開始で計画している。同プロジェクトは気化の際の冷熱活用を目指している。

パキスタンの Pakistan LNG 社 (PLL) は、2026 年 4 月 23 日、LNG 調達の国際入札招請を発行した。PLL は 2026 年 4 月下旬から 5 月中旬の間に Port Qasim に 3 カルゴを供給する「評判の良い」供給者サプライヤーを探すとした。PLL にとり 2023 年 12 月 21 日以来のスポット入札となる。

パキスタン Mari Energies 社は、2026 年 3 月 31 日、Sachal ガス処理設備 (SGPC) にて、LNG、工業用二酸化炭素 (CO₂) を製造するため排気ガスから炭化水素を回収することにより、メタン排出を削減するため、Ghani Chemical Industries (GCIL) 社と組んで GHG Emissions Mitigation 社 (GEM) を設立したことを発表した。Mari は、本プロジェクトが両社の出資、および Habib Bank (HBL) による融資での資金調達の組み合わせにより調達されることとなる、と述べた。

バングラデシュの Titas Gas Transmission and Distribution 社は、2026 年 4 月 21 日、Moheshkhali 基地の 2 隻の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 中 1 隻が技術的理由で停止したため、ダッカへのガス供給が急減した、と述べた。

オーストラリア産業・科学・資源省は、2026 年 4 月 2 日、同年第 3 四半期に可能性がある東部市場のガス不足に備え、今後 30 日間国内市場への供給に関して主要ガス生産企業と協議し、ADGSM (オーストラリア国内ガスセキュリティメカニズム) を利用すべきか 5 月中旬までに判断することを発表した。この方針通知は、オーストラリア国内ガス供給の第 3 四半期の不足の可能性を指摘する ACCC ガス報告を受けてのものとなっている。

オーストラリア Viva Energy 社は、2026 年 4 月 9 日、Geelong で計画している LNG 基地が、連邦環境保護・生態多様性保存 (EPBC) 法下の公式承認を同 1 日に受けたことを発表した。2025 年 5 月にヴィクトリア州政府の環境影響評価を受けていた。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 4 月 22 日、連邦裁判所が Woodside Energy を相手取った Greenpeace Australia Pacific (GAP) による訴えを却下した、と述べた。

オーストラリア Woodside Energy 社の 2026 年 4 月 23 日の年次株主総会によると、Scarborough Energy プロジェクトは、引き続き 2026 年最初の LNG カーゴ実現に向け予定通り進展している。Louisiana LNG は 2029 年に最初の LNG を目指している。同プロジェクトの価値は質の高いグローバルプレイヤーとの主要インフラストラクチャー、引き取り、ガス供給の諸契約により強化されつつある。米国での Beaumont New Ammonia プロジェクトは最初の生産を実現した。Woodside は自社ネット持分スコープ 1・2 温室効果ガス排出削減の 2025 年目標を実現し、2030 年目標に向けても前進している。2025 年については自社分総スコープ 1・2 排出量 (オフセット抜きの排出源での実排出) について、総原油・ガス生産の増加にも関わらず、削減を実現した

オーストラリア Woodside Energy 社の 2026 年 4 月 29 日発表の同年第 1 四半期報告によると、Scarborough Energy プロジェクト (Scarborough および Pluto トレイン 2) は、同第 1 四半期末時点で (Pluto トレイン 1 改造を除き) 96% 完成となり、予算内・引き続き 2026 年第 4 四半期の最初の LNG カーゴに向け予定通りとのこと。Scarborough FPU (浮体生産設備) はオーストラリア到着後接続完了し、上部構造のコミッショニングを開始した。第 2 四半期に入り、Scarborough FPU は内務省よりセキュリティ規制下の沖合設備に登録された。Pluto トレイン 2 現場の建設・コミッショニング活動は継続し、追加ガスタービン発電設備の点火が実施され、液化コンプレッサー群の初期運転の準備が進行中となっている。Pluto トレイン 1 改造プロジェクトの 3 モジュール中 2 本がタイの組み立てヤードを出発、第 2 四半期に Pluto 現場に到着した。同現場では土木、構造、配管作業が進展し、2026 年 5 月の Pluto LNG トレイン 1 の修繕期間中に完成される予定の諸活動の準備が焦点となっている。

2026 年 4 月 23 日、Wheatstone 設備の LNG 生産は、3 月のトロピカルサイクロン Narelle による損害からの修繕を経て全面復旧した。このサイクロンにより同設備の両 LNG 系列ともいったん停止した。ウェスタンオーストラリア州の顧客向けガス生産はサイクロンの 1 週間以内に再開できた。このサイクロンで Gorgon LNG 設備でも 3 本中 1 系列の一時停止があった。

オーストラリアの Offshore Alliance (OA) 労働組合は、2026 年 4 月 24 日、「INPEX が組合と新たな労使協定に達するために話し合う姿勢を示していることに鑑み」ストライキ行動通知は 5 月 15 日以降まで行わない、と述べた。組合・会社がオーストラリア

公正労働委員会 (FWC) 立ち合いで 5 月 5-15 日に 6 日間の会議を行うことに合意している。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 4 月 8 日、Barossa ガスプロジェクトについて、生産再開と全開での操業に向けての進展を発表した。第 1 四半期には 3 カargo が販売されたものの、コミッショニング活動により生産が制限された。

オーストラリア Santos 社が、2026 年 4 月 23 日に公表した同年第 1 四半期報告書によると、Barossa FPSO (浮体貯蔵・払い出し設備) は、熱交換設備系列の浄化清掃が完了し、次週に生産を立ち上げる見込みとのこと。今般の停止の期間にドライガスコンプレッサーのシールが交換され、同設備の再稼働後には全量生産が可能となる。LNG 生産は FPSO 稼働開始後数日後には開始見込み。PNG LNG は 98% を超える高い稼働率を維持し年間換算 860 万トンを生産した。GLNG は安定した上流生産を行い、期間中に年間換算 580 万トンの LNG を生産、24 契約カargo を出荷した。

日揮ホールディングス株式会社は、2026 年 3 月 31 日、海外 EPC 事業会社である日揮グローバル株式会社が、韓国の現代建設株式会社と共同で、TotalEnergies 社とそのパートナーがパプアニューギニアで計画する年間 400 万トン (133 万トン×3 系列) 大型低炭素 LNG プラント Papua LNG 年間建設プロジェクトの EPC (設計・調達・建設) 業務の優先契約交渉候補として選定されたことを発表した。今回増設する LNG プラントでは、主要機器の一つである、天然ガスを冷却するための冷媒コンプレッサーの駆動に関し、従来のガスタービンではなく、電動モーターによる「E-Drive」を採用する予定としている。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 4 月 16 日、パプアニューギニア Papua LNG プロジェクトは、同年後半の FID (最終投資決定) に向けて進捗している、と述べた。

[北米]

EIA (米エネルギー情報局) は、2026 年 4 月 7 日、同月分の短期エネルギー見通しにて、ホルムズ海峡を通る LNG 輸出カットによりグローバルの LNG 供給が減少し、米指標ヘンリーハブ価格と欧州・アジア輸入価格のスプレッドが急、米国の LNG 輸出増加を促進している、と述べた。米国 LNG 輸出設備はピークキャパシティーに近い運転状態で 3 月は 17.9 bcf/d (1155 万トン) と、2025 年 12 月の過去最高に近い水準を輸出した。稼働率は高く、これ以上の輸出増量フレキシビリティは限定されるとしている。このフレキシビリティはメンテナンスの先送り、新規プロジェクト稼働立ち上がりペース、最近の輸出承認合意によるものとなる。EIA は 2026 年通年の LNG 輸出を 17.0

Bcf/d (1.29 億トン) と 1 月時点の 16.4 Bcf/d から+3.7%高く予測しており、2027 年輸出は 18.6 Bcf/d(1.41 億トン) と 1 月時点の予測よりも 0.5 Bcf/d(+2.8%) 高く予測している。少なくとも米国 LNG 輸出事業者の内 1 社が、2026 年第 2 四半期 (2Q26) グローバルの供給混乱状況による価格面での経済性優位の中、メンテナンスの先送りを検討しているとしている。EIA は 2026 年第 2 四半期について、3 月に実質完成に達した Corpus Christi Stage 3 (第 5 系列)、同期輸出開始予定の Golden Pass 第 1 系列より、公称輸出容量 0.9 Bcf/d (680 万トン) の追加分の稼働開始を見込んでいる。3 月に DOE (米エネルギー省) は、Plaquemines LNG について米国と自由貿易協定を持たない諸国へのカーゴ輸出承認について、13% (0.5 Bcf/d) (380 万トン) 増加を承認した。これら非 FTA 諸国が米国 LNG 輸出の太宗を受け入れている。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2026 年 4 月 3 日、Sabine Pass ステージ 5 拡張プロジェクトについて、環境影響評価書案が用意できたことを通知した。

Cheniere 社傘下の Corpus Christi Liquefaction 社、EPC (エンジニアリング・調達・建設) 請負会社 Bechtel は、2026 年 3 月 23 日のテキサス州環境品質委員会 (TCEQ) への提出書類によると、Corpus Christi ミッドスケール第 6 系列の試運転作業を 3 月 31 日から 4 月 2 日の間に開始するとのこと。

DOE HGEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は、2026 年 3 月 23 日、Corpus Christi Liquefaction 社、Corpus Christi Liquefaction Stage IV 社、Cheniere Marketing, LLC (合わせて "CCL Stage 4 Project") による米国産 LNG を年間 1.2 Tcf (2500 万トン) を、自由貿易協定 (FTA) 相手諸国、非自由貿易協定 (NFTA) 諸国に、最初のコマーシャルベース輸出から 25 年間、輸出することの承認を求める 2026 年 3 月 19 日付の申請の受領を通知した。HGEO は、Corpus Christi Liquefaction 社、CCL Midscale 8-9 社、Cheniere Marketing 社 (合わせて "CCL Midscale Uprate Project") により 3 月 2 日に提出された申請の受領も通知した。こちらは追加年間 251 bcf (522 万トン) を FTA、NFTA 諸国向けに輸出する承認を求めている。期間は 2050 年 12 月までの承認を求めている。

米連邦議会上院議員のグループが、2026 年 4 月 7 日、Cheniere Energy 社が代替燃料税 (AFET) 制度下の「代替」燃料として LNG を利用したことに関して 3.70 億米ドルの税額控除を受けたとの情報を受けて、LNG 輸出者に対する税制優遇についての内国歳入庁 (IRS) による取り扱いについての調査を開始したことを発表した。

DOE HGEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は、2026 年 4 月 9 日、Cove Point LNG 社が海外から米国に輸入した LLNG を、2026 年 7 月 8 日から 2 年間

で 70 bcf (146 万トン) 相当輸出する包括承認を申請する 2026 年 3 月 16 日の申請を受理したことを通知した。

Master Boat Builders 社は、2026 年 4 月 2 日、Bay-Houston Management 社・Bay Towing 社・Moran Towing 社・Suderman & Young Towing 社間の合弁事業 Gulf LNG Tugs of Port Arthur 社とのパートナーシップの下、Jill の引き渡しを発表した。このパートナーシップにより、ガルフ地域 4 件の LNG 設備で業務を行っている。Jill は Robert Allan 社が設計した Rapport 2800 タグボートシリーズの 6 隻目で、Gulf LNG 業務特定の同型設計の 2 隻中 2 隻目である。

Freeport LNG Development 社は、2026 年 4 月 6 日、2004 年 6 月 18 日に発行されその後一部修正された天然ガス法第 3 条に基づく承認指令中の、一部の承認を打ち切る FERC (米連邦エネルギー規制委員会) 指令を申請した。具体的には、既に 10 年以上使用されていない輸入 LNG の気化に伴う特定の設備の承認の打ち切りを求めている。

DOE HGE0 (米国エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は、2026 年 4 月 2 日、Elba Island 設備からの追加の LNG 輸出について、申請された年間 28.25 Bcf 満量で、Southern LNG 社の申請を承認する指令を発行した。今回の非 FTA 輸出数量は、当初の指令での承認された SLNG の非 FTA 輸出数量に追加となり、Elba Island 設備の FERC (連邦エネルギー規制委員会) により承認されている最大液化容量を反映して、非 FTA 数量総計が年間 158.25 Bcf (329 万トン) となる。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2026 年 4 月 16 日、Venture Global CP2 LNG 社、Venture Global CP Express 社に、CP2 LNG のルイジアナ州キャメロン郡 LNG 設備拡張・CP Express のテキサス州ジャスパー郡内の天然ガスパイプラインシステムの新規コンプレッション設備の追加に関してプレファイリング (事前審査) 手続きの適用に関する判断を求める両社の 2026 年 3 月 25 日付申請に対する応答として、書簡を発出した。FERC はこの来たる CP2 LNG 拡張プロジェクトは、プレファイリング・審査手続き義務の対象にならない、と判断した。この拡張プロジェクトは、CP2 LNG 設備にて、単一混合冷媒プロセス機器 2 本・副次機器を含む液化設備 6 区画、ガスタービン 5 基・熱回収ボイラー 5 基・蒸気ボイラー 2 基を新建屋内に含む 720 MW 発電設備、ガス前処理設備 3 基、窒素除去設備 2 基、原料ガス中に存在する可能性がある過剰窒素除去のための LNG エクspander 3 基、酸性物質の排出を制御するための熱酸化装置 3 基、ボイルオフガスコンプレッサー 5 基、ユーティリティ・安全システム、第 3 栈橋を含む。さらにこのプロジェクトとしては、ジャスパー郡内の 272,000 馬力のコンプレッサー 1 基を含む。

QatarEnergy ・ ExxonMobil 合弁事業 Golden Pass LNG は、2026 年 3 月 30 日、最初の LNG 生産を実現したことを発表した。

千代田化工建設株式会社は、2026 年 4 月 1 日、米国テキサス州サベーンパスで遂行中の Golden Pass LNG プロジェクト第 1 系列の建設が完了したことを発表した。千代田化工の米国子会社である千代田インターナショナル社 (CIC) と、米国 McDermott が、試運転を完了した。

QatarEnergy ・ ExxonMobil 間の合弁事業 Golden Pass LNG 社は、2026 年 4 月 22 日、初の LNG 輸出カーゴの積み込み・出航を発表した。Golden Pass LNG は年間 1800 万トンの LNG を輸出する見込み。

RGLNG 各社 (Rio Grande LNG 社、Rio Grande LNG Train 4 社、Rio Grande LNG Train 5 社) は、現行の非 FTA 承認下では、コマーシャルベースの LNG 輸出を、指令第 4492 号発行の日から 7 年以内、2027 年 2 月 10 日までに開始しなくてはならないとされている。RGLNG 各社は 2026 年 2 月 27 日、この非 FTA 承認上の輸出開始期限を 2027 年 9 月 30 日まで延長することを申請した。DOE/HGEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は 2026 年 3 月 23 日、申請受領を通知した。

ABB 社は、2026 年 3 月 24 日、Bechtel 社から米国 Rio Grande LNG (RGLNG) 設備第 4、5 系列の統合自動化・電気関係ソリューションに業務範囲を拡張する追加業務を受注したことを発表した。ABB は既に RGLNG 液化 3 系列に統合ソリューションを提供している。RGLNG フェーズ 1 は建設中で、2027 年稼働開始見込み。第 4 系列は 2030 年、第 5 系列は 2031 年に稼働開始見込み。Rio Grande LNG は全生産容量年間 3000 万トンを持つ見込み。

NextDecade 社傘下の Rio Grande LNG 社は、2026 年 4 月 3 日、ピーク時の現場作業員を 1 日当たり最大 7,500 人まで増加することについて FERC (連邦エネルギー規制委員会) に要望を提出した。FERC は、同 10 日、Rio Grande LNG 社に対して、労働力構成を修正し、建設作業時間を夜間、週末作業を含むように拡大し、ピーク労働力を 1 日当たり 7,500 人まで増加する申請を承認した。

Honeywell 社は、2026 年 4 月 13 日、自社の液化プロセス技術、機器が NextDecade 社のテキサス州ブラウズヴィル港 Rio Grande LNG 第 4、5 系列プロジェクトで、EPC(エンジニアリング・調達・建設) コントラクター Bechtel Energy 社との契約を通じて、用いられることとなることを発表した。NextDecade は Honeywell のコイル巻方式熱交換機 (CWHE) 機器、C3MR プロセス技術を使うこととなる。Honeywell の LNG 技術は、同設備最初の 3 液化系列でも使われることとなる。この追加 2 系列によ

り、Rio Grande LNG の LNG 生産容量は、年間 1800 万トンから 3000 万トンに増加する。5 系列ともに 2031 年半ばまでに稼働開始見込みである。

Rio Grande 各社 (Rio Grande LNG 社、Rio Grande LNG Train 4 社、Rio Grande LNG Train 5 社) は、2026 年 4 月 24 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) に、2031 年 11 月 22 日までにプロジェクト設備を建設・業務利用開始できるようにするため 3 年間の延長を認めることを申請した。Rio Grande 各社はさらに、2026 年 6 月 24 日までに延長申請を許可することを FERC に要請した。2019 年の承認指令では、同設備の立地・建設・操業の許可について、プロジェクト設備が「指令の日付から 7 年以内に建設完了・利用可能となる」ことを条件としていた。2022 年 4 月 6 日、は 2 年間の延長を申請した。FERC はこの申請を 2022 年 10 月 14 日に承認し、期限を 2028 年 11 月 22 日まで延長した。第 1 系列の実質完成は 2027 年第 4 四半期まで予期されず、残り 4 系列はその後順次稼働、第 5 系列は 2031 年第 2 四半期に稼働する予定である。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 4 月 17 日、Harbor Docking & Towing ・ Saltchuk Marine 間の合弁事業である Green Tug Towing 社に、ルイジアナ州ベルチエースの C&C Marine and Repair で建造され 2028 年 Louisiana LNG に引き渡す予定の新造曳船 4 隻の設計・建造を委託する業務契約を締結したことを発表した。これらの曳船は、20 年間、Louisiana LNG 設備に寄港する LNG 輸送船舶の曳航業務を行う。Green Tug Towing は Belle Chasse でこれらの船舶の建造を監督し、曳船業務を支援するため Lake Charles で曳船の設備を運営する。建造は 2026 年第 2 四半期に開始予定。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 4 月 10 日、米ルイジアナ州沖 140 km のガルフ内 Bandit の自社非操業 (マイノリティ参加) での石油資源の発見を発表した。Bandit-1 探査井は Green Canyon 第 680 鉱区で Occidental 社のオペレーションにより掘削され、石油分を多量に含む砂層に的中した。結果は参加企業間で検討中である。Bandit は Occidental が 45.375%を持って操業し、Chevron U.S.A. 社 (37.125%)、Woodside Energy (17.5%) が参加している。

オーストラリア Woodside Energy 社の 2026 年 4 月 29 日発表の同年第 1 四半期報告によると、Louisiana LNG プロジェクトの 3 系列で構成される基本段階は、同四半期末時点で 24%完成に達し、引き続き予算内・予定通り進行している。2029 年の LNG 出荷開始を目標としている。同四半期中に達成された重要事項として、LNG タンク群の進展、浚渫作業の開始があった。第 1 系列は同四半期末時点で 31%完成となった。同四半期中、構造鉄鋼の設置が進展し、第 1 系列のラックで最初の配管が設置された。第

2 系列は 22%、第 3 系列は 14%完成、杭打ちは第 2 系列で完了し、第 3 系列で開始された。Driftwood Pipeline オペレーター権の Williams 社への移転は完了した。

Commonwealth LNG 社は、2026 年 4 月 1 日、DOE HGE0 (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) に、株式会社 JERA との SPA (売買契約) が解消されたことを通知した。

Caturus は、2026 年 4 月 7 日、傘下の Commonwealth LNG プロジェクトがルイジアナ州キャメロン郡の自社 LNG 設備の資金調達を裏付ける買主の引き取り契約を最終的なものとしたことを発表した。コマーシャル面の段取りが固まったことから、融資機関との資金調達のプロセスが開始され、FID (最終投資決定) は今後数週間中に見込まれるとしている。EQT LNG Trading 社、Glencore 社、Mercuria Energy Trading 社、PETRONAS LNG 社、Aramco Trading Americas 社がいずれも Commonwealth と同設備からの引き取りに関して、各々長期 SPA (売買契約) を締結している。Commonwealth のフェーズ 1 開発は 125 億米ドルのプロジェクトである。2030 年稼働開始見込みで、用地準備が進行中である。Caturus は同設備用の要長期機器の製造開始を可能とするため、Commonwealth LNG の EPC (エンジニアリング・調達・建設) パートナー Technip Energies 社を通じて、購入発注を承認している。これには Baker Hughes から LM9000 ガスタービン駆動の混合冷媒コンプレッサー 6 基、Honeywell から主超低温熱交換器 6 基、Solar Turbines から Titan 350 ガスタービン発電機 4 基を含む。プロジェクト実施段階が進行中で、プロジェクト日程・コストを維持する一連の限定付き推進通知がなされている。Caturus 上流部門事業、Commonwealth LNG は Kimmeridge により設立された Caturus プラットフォーム下に統合されている。アブダビに本社を置く国際エネルギー企業 Mubadala Energy は Caturus の 24.1%株式を所有している。

Technip Energies 社は、2026 年 4 月 7 日、Commonwealth LNG から米国ルイジアナ州キャメロン郡年間 950 万トン LNG 輸出設備開発推進継続の承認を受けた。Commonwealth LNG と締結済みの EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約に基づき発行されたこの承認により、Technip Energies は FID (最終投資決定) に先立ち、既に発表済みの要長期機器購買発注を対象とする承認に加えて、主要活動を維持し、プロジェクトのモメンタムを保つことができる。同プロジェクトは、Technip Energies の SnapLNG by T.EN™ モジュラー式かつスケールラブルなソリューションを活用する同型液化系列 6 本の供給を含む。

Commonwealth LNG 社は、2026 年 4 月 9 日、自社プロジェクトの月次進捗状況報

告を FERC (連邦エネルギー規制委員会) に提出した。3 月初旬、EPC コントラクターは現場に動員され、用地準備作業が開始された。用地準備の進捗は 5%未満である。

Texas LNG Brownsville 社は、2026 年 4 月 10 日、FERC (連邦エネルギー規制委員会) に考古学現場作業の実施通知の発行を申請した。法廷により許可差し戻しおよびその後の環境影響評価を経て、同社は過去の規制命令および覚書に基づく文化データ収集の開始を目指している。この現場での作業は、2026 年 7 月に開始予定の現地準備と建設のために前提となる。

Glenfarne 社は、2026 年 4 月 2 日、自社のグローバル LNG コモディティのプラットフォーム Glenfarne Global Commodities (GGC) 社に Texas LNG からの LNG 年間 150 万トン、Alaska LNG について今後数週間で買主向けの配分が最終化してから決められる引き取りの数量を含めることでさらに拡大することを発表した。GGC は大西洋市場向けに供給するため年間 150 万トン分の引き取りキャパシティーに関して Texas LNG と長期引き取りの取り決めに固めた。さらに 2031 年 Alaska LNG が稼働開始時する際 GGC 供給ポートフォリオに引き取りを加える。Texas LNG における GGC 容量増加は、EQT との Texas LNG からの長期引き取りを年間 50 万トンに修正することで対応する。Texas LNG は目標とする第 2 四半期の FID (最終投資決定) に前進している。Glenfarne はプロジェクトの必要額のほぼ 2 倍の規模である 100 億米ドル以上の引き受け能力を持つ初期銀行グループからコミットメント書簡を受け取っているとしている。プロジェクトファイナンスは、フィナンシャルアドバイザーとして CIBC、みずほが主導している。Glenfarne は Kiewit との間で Texas LNG の一括請負引き渡し方式の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を締結しており、プロジェクトの液化、前処理、パイプラックモジュールの組み立てにはテキサス州イングルサイドの Kiewit Offshore Services (KOS) を使うこととなる。中国や東南アジアのモジュラー建設ヤードでなく、KOS 設備を選択し、熟練した米国、テキサス州の労働力に投資し、プロジェクトのリスクを削減する。

Expand Energy 社は、2026 年 4 月 28 日、Delfin FLNG 1 社との間で、FID (最終投資決定) を条件として、長期の液化・引き取りの SPA (売買契約) を同 22 日に締結した、と明らかにした。Expand Energy は Delfin FLNG 1 から年間 115 万トンの LNG を、ヘンリーハブ連動価格で、契約開始目標 2031 年で購入することとなる。この発表によると、過去に発表した Delfin、Gunvor 社との SPA は失効となった。

DOE HGEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は、2026 年 4 月 23 日、Gulf LNG Liquefaction 社 (GLLC) が同 3 月 31 日に提出した申請の受理を通知した。

GLLC は非自由貿易協定諸国への輸出承認について現在の輸出開始期限を 2026 年 7 月 31 日から 5 年間、2031 年 7 月 31 日まで延長するように修正することを要請している。GLLC は、FERC (連邦エネルギー規制委員会) が 2024 年 5 月 23 日、同プロジェクトの建設・稼働開始の期限を 2029 年 7 月 16 日まで延長することを承認した、と述べている。

DOE HCEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) は、2026 年 4 月 22 日、ST LNG 社に、テキサス州マタゴダ南東沖アメリカ湾内連邦管轄水域 Brazos 鉦区 BA-476 に位置する計画中の ST LNG DWP 開発プロジェクトから、米国と FTA (自由貿易協定) を有する諸国への船舶による国産 LNG 輸出を承認する指令を発出した。本指令により承認される数量は、同プロジェクト初輸出日から 2050 年 12 月までの期間、年間 460 Bcf (年間 957 万トン) 相当となる。ST LNG はこの輸出期間に続く 3 年間の補足期間中に補足数量の輸出を継続できるとしている。

Lantern LNG Holding 社は、2026 年 4 月 29 日、自社がテキサス州沖マタゴダ湾で計画する沖合 LNG 開発の包括的 LNG 技術・自動化ソリューションの提供者として Honeywell 社を使う意向を明らかにした。Lantern LNG は Honeywell の天然ガス前処理、先進型液化・コイル巻熱交換器を含む全面的 LNG 技術のポートフォリオと、Honeywell の自動化・デジタルのソリューションを合わせて使う計画である。Lantern LNG が計画するマタゴダ湾ニアショア設備は 3 系列で年間 1200 万トンの LNG を生産するものとしている。

株式会社国際協力銀行 (JBIC) は、2026 年 4 月 13 日、三菱商事株式会社との間で融資金額 1,560 百万米ドル (JBIC 分)、および同社の米国法人 Mitsubishi Corporation (Americas) との間で融資金額 815 百万米ドル (JBIC 分) の貸付契約をそれぞれ 3 月 31 日に締結したことを発表した。本融資は、いずれも株式会社三菱 UFJ 銀行をはじめとする民間金融機関との協調融資により実施するとしている。本件は、三菱商事が、米国 Aethon III LLC 社、Aethon United LP 社および関連する会社等を買収するために必要な資金の一部を融資するものとしている。

米国輸出入銀行 (EXIM) は、2026 年 4 月 2 日、エジプト向け LNG 輸出を支援する 20 億米ドル以上の輸出信用保険を理事会が承認したと発表した。2026 年・2027 年、Hartree 社の EGPC 社との契約下で予定される LNG 出荷分を支援することとなる。

EQT 社は、2026 年 4 月 22 日、需要の端境季節中の価格実現を最適化するために 4 月から戦術として生産量削減を開始し、第 2 四半期の生産見通しガイダンスに 10 - 15 Bcf の削減を組み込んでいると述べた。同社によると、この戦略的削減は貯蔵の形で実

施されている。季節的に低需要の時期に地中にガスを維持し、需要が反騰する時に基準線を越えて数量を急増させる。同社によれば、中期的には、LNG の過剰供給が米国市場に逆流するリスクは事実上消えた。同社は 同社は 2030 年頃に LNG 取引を開始する見込みである。同社は LNG ビジネスにおいて、国内ガスビジネスにおけると同様、一部を長期、一部を短期取引として、ごく一部をスポット市場とする意図である。EQT はこうした契約の一部を、引き取り時期が近付いてからとする考えである。同社はこれらの契約について、2028、2029 年頃の焦点となると見込んでいる。

Kinder Morgan 社 (KMI) は、2026 年 4 月 22 日、ヒューストンとその周辺メトロポリタン地域に供給する天然ガスパイプラインシステム Monument Pipeline の買い取りに合意した、と述べた。Monument Pipeline は KMI の既存のテキサス州内天然ガスパイプライン網と補完的となる。Natural Gas Pipeline Company of America (NGPL) は、テキサspanハンドル地域の需要増加に対応する Amarillo 拡張プロジェクトを進めている。同プロジェクトは 2028 年第 3 四半期の稼働開始を目標としている。KMI はルイジアナ州の KinderHawk 採集システムの近くの LAHA ヘッダープロジェクトの建設作業を開始している。同プロジェクトは 2027 年第 1 四半期の稼働開始を目標としている。KMI はテキサス州中部での天然ガス配給を強化する Creekside Lateral プロジェクトの開発を進めている。発電、工業用、データセンター向け需要増加に対応するもので、確定的長期契約を裏付けとしている。2026 年第 4 四半期の稼働開始を目標としている。同社によると輸送料金ベースの中流エネルギー企業として信用力の高い荷主を有しており、国際市場のボラティリティから隔離されている。より長期的には世界の紛争により米国から LNG 供給を調達する優位性が際立っており、KMI がこれらの荷主に提供するサービスへの需要を高めている。

Polar LNG (Polar Train LNG 社) は、2026 年 3 月 30 日、プロジェクト会社として発足を発表した。米アラスカ州 North Slope の Prudhoe Bay でニアショア LNG プロジェクトを推進し、年間 700 万トンの設備をモジュラーインフラストラクチャー方式で開発、コスト 80 - 90 億米ドル、2029 - 2030 年 LNG 出荷開始を目指すとしている。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 4 月 8 日、米アラスカ州 Quokka-1 評価井仕上げを発表した。North Slope の Quokka 地域での高品質な Nanushuk 資源層の状況をさらに把握することができた。この地域は Santos が 51%、Repsol が 49% の操業権を有している。当該評価井は 2020 年に掘削された Mitquq-1 発見井から 10 km 程度の位置になる。両井間で資源層砂は相互連動している。

Crowley 社は、2026 年 4 月 16 日、プエルトリコ向け輸送専門の初の米国籍 LNG 輸

送船舶 *American Energy* が、2025 年 3 月の最初の引き渡し以降、200 万 m³ (90 万トン) の米国産 LNG をプエルトリコに輸送した、と述べた。

スペイン *Técnicas Reunidas* 社は、2026 年 3 月 26 日、カナダ LNG Canada がブリティッシュコロンビア州 Coastal GasLink パイプラインのフェーズ 2 の FEED (基本設計) 業務実施に TR Canada E&C 社を選定したことを発表した。この受注は、*Técnicas Reunidas* がこのプロジェクトのこれよりも前の段階で実施したコンサルティング、エンジニアリング業務に続くものである。今回のプロジェクトは、追加コンプレッサーステーション 5 基開発、既存 Coastal GasLink パイプライン経路における改造を含む。Coastal GasLink パイプラインは、TC Energy およびそのパートナーにより所有・操業されている。LNG Canada はフェーズ 2 計画推進において、統合型商業モデルで Coastal GasLink と共同で差作業を進めている。承認されれば、フェーズ 2 は既存のインフラストラクチャを活用して同パイプラインの天然ガス容量を倍増する。同パイプラインは現行の輸送容量が日量 2.1 bcf だが、最大 5 bcf で検討されてきた。*Técnicas Reunidas* が受注した業務範囲は、初期エンジニアリング、プロジェクト設計、プロジェクトコスト見積、設備作業の範囲の評価が含まれる。

Shell 社は、2026 年 4 月 27 日、カナダのブリティッシュコロンビア州・アルバータ州の Montney シェール盆地に焦点を置くエネルギー企業 ARC Resources 社を買収する契約を締結したことを発表した。この発表によると、ARC の確認・推定ガス埋蔵量がカナダの LNG における Shell の成長を支えるポテンシャルがある。この取引は 2026 年後半完了見込み。ARC の事業は、Shell のブリティッシュコロンビア州 Groundbirch 資産、アルバータ州 Gold Creek プロジェクトと同じ地域に位置している。Shell の Groundbirch 資産は、LNG Canada 液化設備、国内ガス市場にガスを供給している。

カナダ政府、マニトバ州は、2026 年 4 月 14 日、環境影響評価について両者間の新たな協力協定を発表した。この発表によると、同州の重要インフラストラクチャ計画について「1 プロジェクト・1 審査」のアプローチを持ち込む。ケースバイケースでマニトバ州のプロセスに依存するか、連邦・州間の調整型の手法を実施するか、両当局が最も効率的なアセスメントプロセスを採用できることとするものである。この協力協定により、同州での主要インフラストラクチャプロジェクトを加速し、Port of Churchill Plus のようなプロジェクトの着工を早めることにつながる。同プロジェクトは、全天候型道路、鐵道増強、新規のエネルギー回廊、海洋砕氷能力増強など改善を進めることでチャーチル港湾を近代化する。これら増強により、北部に信頼性高い通商の回廊を確立し、カナダは稀少鉱物・LNG 等、欧州市場への資源輸出を増加できる。

メキシコの大統領は、2026 年 4 月 8 日、ガス開発についての調査を行う科学委員会の設置を発表した。

New Fortress Energy (NFE) 社は、2026 年 3 月 15 日、過去期間の財務書類中、連結キャッシュフローに誤りを発見したと明らかにした。これらの過去期間中に、一部の大規模プロジェクトの一部のベンダー向けの支払いを遅らせて、自社の運転資金や流動性の改善につなげていた。

New Fortress Energy (NFE) 社は、2026 年 4 月 1 日、UK RP (英再建計画) を通じて実施される既に発表された取引に、株主からの強い支持を受けたことを発表した。NFE は 3 月 17 日に、合意に基づく英国 RP の一環として、債権者と再編支援契約 (RSA) を締結したことを発表していた。NFE はさらに 4 月 1 日、債権者が RSA を承認し、一定の条件を満たした上で、早期合意手数料を受け取ることができるようにする期限を、ニューヨーク時間 4 月 8 日午後 5:00 まで延長することを発表した。NFE は 4 月に UK RP プロセスを開始し、2026 年第 3 四半期に取引完了の見込みとしている。

アブダビ 2PointZero 社は、2026 年 4 月 1 日、International Resources Holding (IRH) 社がメキシコでの LNG Alliance 社のプロジェクト AMIGO LNG と 20 年間の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。IRH はソノラ州グアイマスの AMIGO LNG 輸出プロジェクトから年間 100 万トンの LNG を購入する。引き渡しは、2028 年後半、同プロジェクトの液化設備が本格稼働する際に開始される見込み。

Big River Energy 社は、2026 年 4 月 2 日、メキシコのコリマ州マンサニーヨの Gato Negro Manzanillo LNG 設備の開発 FID (最終投資決定) を 2027 年末目標としている、と述べた。COD (コマーシャル稼働開始日程) は 2030 年末を目標としている。メキシコの許可手続きは全て完了しており、新政権下での連邦環境許可、コマーシャル上の許可の発行を待っている。Gato Negro Manzanillo LNG は米 DOE の FTA 諸国向け天然ガス輸出/再輸出許可を得ている。非 FTA 諸国向け天然ガス輸出/再輸出許可申請を 2024 年 8 月に提出した。Gato Negro Manzanillo LNG は Samsung E&A 社をプレ FEED/FEED/EPC 業務について採用している。フィナンシャルアドバイザーとしては Mizuho Securities USA 社を使っている。

米海軍設備エンジニアリングシステム司令部 (NAVFAC) 南東部支部は、2026 年 3 月 30 日、キューバのグアンタナモ海軍基地への LNG 供給継続に関して Excelerate Gas Marketing 社と 6950 万米ドルの固定価格契約を同 26 日に決定したことを発表した。5 年間で 4,053,860 百万 Btu (78,592 トン) の LNG を納入する。同基地内の発電設備に供給するため、14-21 日毎に引き渡しを行う。2019 年、NAVFAC は同基地のエネルギー

ギーインフラストラクチャを老朽化したディーゼル発電設備から LNG 燃料によるコンバインドサイクル発電設備に交換することにより近代化する省エネルギーパフォーマンス契約を開始した。今回の契約は 2031 年 4 月までに完了することが見込まれる。

[中東]

イタリア Edison 社は、2026 年 3 月 27 日、カタール QatarEnergy 社より、Adriatic LNG 基地への引き渡しが予定されている LNG 供給に影響するフォースマジュールの新たな通知を受領したことを発表した。QatarEnergy は Edison に、4 月から 6 月中旬まで累計 10 カーゴの供給義務を満足できないことを通知した。

カタール QatarEnergy 社は、2026 年 4 月 1 日、自社に備船されている燃料油輸送船舶 Aqua 1 が、同日の早朝時間帯に同国北部領海内でミサイル攻撃対象となったことを確認した。この事象の結果、船員に負傷者はなく、環境上のインパクトもなかった。

TotalEnergies 社の 2026 年 4 月 29 日、同年第 1 四半期業績報告会によると、NFE (North Field East) からの最初の LNG は、2026 年末または 2027 年初に見込まれるが、戦争がどこまで続くかに依存している、とのこと。Papua LNG については 2026 年後半の FID (最終投資決定) に向けて足並みがパートナー間で揃っているとのこと。

カタール Nakilat (Qatar Gas Transport Company Q.P.S.C.) 社は、2026 年 4 月 21 日、同年 3 月 31 日までの四半期業績を発表した。純利益が前年同期の 4.33 億カタールリヤルから 4.39 億カタールリヤルに増加した。

イスラエル沖 Leviathan ガス田は 2026 年 4 月 2 日に生産を再開したことを、同 3 日 NewMed Energy 社が証券取引所への報告で明らかにした。

[アフリカ]

Subsea7 社は、2026 年 4 月 1 日、Noble Energy EG 社 (Chevron 子会社) により、赤道ギニア沖 Aseng ガス開発プロジェクトの海底開発部分設置業務を受注したことを発表した。Aseng ガス田を既存 Alen プラットフォームに接続する 1 本生産井のタイバックとなる。

韓国 GasEntec 社は、2026 年 4 月 21 日、ELTON Logistics & Services 社との間で、セネガルのダカルでの Dakar LNG 基地向けに、栈橋設置型 LNG 気化設備 (JRU)、随伴陸上 LNG 関連機器供給の諸契約を締結したことを発表した。同基地は、同国最大の発電設備であるダカル Cap des Biches の 300 MW コンバインドサイクル発電設備、その他の数件の発電設備、工業用顧客、その他の顧客向けにガスを供給することと

なる。GasEntec は、ガス供給開始を迅速ペースで実施し、本格稼働を 2027 年前半目標としている。

Eni は、2026 年 4 月 7 日、エジプトで東地中海沖 Temsah 鉱区 Denise W1 探査井掘削により、ガス・コンデンセートの発見を発表した。初期的には、資源量としてガス 2 Tcf、随伴コンデンセート 1.3 億バレルが推定される。Eni は Temsah 鉱区における Denise 開発を 50%の請負持分で操業しており、残り 50%を bp が保有する。この資産は Eni・EGPC 間の合弁操業企業 Petrobel を通じて操業されている。

中国 GCL グループ (協鑫 (集団) 控股有限公司) は、2026 年 3 月 17 日、Dangote グループとの間で、エチオピアの肥料製造プロジェクト向けの 25 年間の天然ガス供給契約を締結した、と述べた。GCL はエチオピア Ogaden 盆地 Calub ガス田から、ソマリ地方で Dangote が計画中の尿素肥料製造設備に天然ガスを供給する。同設備は 2029 年稼働開始見込みで、年間製造量 300 万トンと東アフリカ最大の近代的肥料製造設備となる。プロジェクト総コストは 25 億米ドルと試算されており Dangote Group が 60%、Ethiopian Investment Holdings が 40%を持つこととなる。

[欧州・周辺地域]

欧州委員会は、2026 年 4 月 22 日、輸入化石燃料への依存を低減しクリーンの域内産エネルギー源へのシフトを加速する諸策を含む "AccelerateEU" パッケージを提案した。

ACER (欧州連合エネルギー規制機関協力機関) は、2026 年 4 月 27 日、2025-2026 年冬季の傾向を対象とするガス市場監視報告を発表した。2025/2026 年冬季、EU はその LNG の 7%、天然ガス輸入量の 4%相当をカタールから調達した。カタール生産が 2026 年 12 月まで停止したままならば、グローバルの LNG 供給不足 26 bcm に達し、EU スポット LNG 需要は 56 bcm (4116 万トン) に達する可能性が高い。フレキシブル LNG カーゴをめぐるアジアとの競争が価格を押し上げる可能性が高い。これにより欧州の夏季貯蔵充填は一層難しくなる。EU 地下ガス貯蔵は 30%を下回って冬季を終了した。発電用ガス依存が高く、寒冷な冬季だったためである。EU ガス在庫は 9 年振りの低水準に近い。現在の LNG 輸入水準 (月間~11 bcm) であれば 80%貯蔵水準は達成し得る。90%目標達成は追加供給なしに困難である。EU ガス需要は前年同期比微増の 2400 TWh (216 bcm) であった。欧州の米国産 LNG への依存がロシア産ガス輸入フェーズアウトの中で増加している。米国産 LNG は EU ガス輸入の 30%、LNG 輸入の 3 分の 2 を占めている。ロシア産ガスフローは減少を続け 240 TWh 近くなった (が依然

EU ガス輸入の 14%を占めた)。

欧州委員会は、2026 年 4 月 9 日、メタン規制の順守（コンプライアンス）に関してより明確な規則を設定する提言の最終化に近付いている、と述べた。「主眼は、コンプライアンスは、分子レベル、カーゴレベル、産地レベル、特定企業レベルまでの追跡を求めるものではないことである」と述べた。EU にガスを輸出する国のガス生産の「一定のシェア」が MRV の対象となっていることを確保するシステムとなる、とのこと。

エネルギー企業、化学品製造企業、業界団体の一群が、2026 年 4 月 13 日、欧州連合 EU27 加盟国エネルギー省宛の書簡で EU メタン規制の変更検討を求めた。新規則に向けて各企業が調整を行えるように「一時停止」を検討することを求めている。厳しい規則により原油、天然ガスの輸入が止まることを懸念している。

Gas Infrastructure Europe (GIE) が、2026 年 4 月 14 日、公表したスタディは、電力、水素、ガスのインフラストラクチャを横断する計画の調整抜きでは、欧州は安定して合理的な価格の、気候に関してニュートラルなシステムを構築できない、と結論付けている。このスタディは、水素はコスト効率が高く強靱なエネルギー転換を可能にする上で重要な役割を担うことを強調している。その中心的な結論は明確である。分断された電力のみのアプローチは、不要なコストやシステムの不安定さを引き起こすリスクがあるとしている。これに対し、協調されたマルチキャリア型（複合型輸送）戦略は、システム全体の効率と回復力を大幅に向上させる。この分析によると、より強力な水素システムは、2050 年までにバッテリーなどの電力側の柔軟性ソリューションの必要性を 30%削減し、全体のシステム安定性を高める可能性があるを示している。また、この研究は、電化が実現不可能なエネルギー集約型産業の脱炭素化における水素の重要な役割も強調している。この研究は、水素がエネルギー輸送の一部を電子から分子へシフトさせることで、電力網の圧力を軽減するのに役立つことも示している。

Dragon LNG は、2026 年 4 月 16 日、南西ウェールズ地方での同基地における気化容量競争入札プロセスの開始を発表した。2029 年 8 月末からの年間 9.3 bcm 処理権をオファーするとしている。関心ある企業は、小規模の配分から、同基地全容量まで様々な容量で、10 年間以上で応札ができる。同基地は Shell ・ VTTI 間の合弁事業である。

Tractebel 社は、2026 年 3 月 31 日、ENGIE 子会社 Elengy より、SORBET プロジェクトの事業化調査、NOEMIC2 プロジェクトの詳細エンジニアリングスタディを受注したことを発表した。両プロジェクトは、フランスのフォスシュルメール近くの Fos Cavaou LNG 基地の長期停止期間中、CO₂ 排出削減を目指す。SORBET ガスプロジェクトは、高圧のボイルオフガスを回収して天然ガス輸送網 (NaTran) に圧入するこ

とでフレア削減を目指す。NOEMIC2 は NOEMIC プロジェクトの一環として 2023 年に導入されたプロパンの注入プロセスを自動化することを目指す。NOEMIC2 は同基地の長期間停止中のフレアリング削減を目指す。NOEMIC は一時的な削減のフェーズであり、SORBET は長期的ソリューションとして、2029 年末の稼働開始を計画している。

EXMAR 社は、2026 年 4 月 15 日、オランダ EemsEnergyTerminal (Gasunie・Vopak 子会社) の長期的な拡張のための FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 改造作業に着手したことを発表した。既存 Eemshaven LNG FSRU 延長・新規改造分 FSRU の両方を対象とする条件付き備船契約締結を受けてのもので、EemsEnergyTerminal 側が 2026 年前半に条件付 FID (最終投資決定) を行うとの意図に基づいている。EXMAR はこの改造プロジェクト向けに、二元燃料・電気型メンブレン LNG 船舶を確保している。EXMAR はエンジニアリング作業にも着手しており、Gas Solutions に 0.75 bcf の LNG 気化設備を発注済みである。この改造作業は、2 隻の FSRUs を EXMAR が所有・操業する構成での EemsEnergyTerminal 基地操業実現への次のステップである。改造後の FSRU は EXMAR の現場に留まる EEMSHAVEN LNG の隣に位置することとなる。同基地は合計で貯蔵容量 LNG 190,000 m³、気化容量日量 1.350 bcf を持つ見込み。

ドイツ SEFE 社は、2026 年 3 月 30 日、2027 年から 2036 年までの期間を対象とした LNG 引き渡しの入札を発表した。当該入札は DES (持ち届け Ex-Ship) 条件の LNG カーゴで基本的に欧州北西部の基地向けとなる。契約期間は 1 年から 10 年となる。LNG 生産者、ポートフォリオプレーヤーともにオープンとしている。

ドイツ Gasfin Services 社は、2026 年 4 月 1 日、Brunsbüttel、Wilhelmshaven 1、Wilhelmshaven 2 のこれまで Deutsche Energy Terminal 社 (DET) が操業してきた LNG 基地のコマーシャル面での管理を引き取ったことを発表した。

ドイツ DET (Deutsche Energy Terminal) 社は、2026 年 4 月 14 日、Brunsbüttel 基地の短期気化容量オークションを完了したことを発表した。2026 年 6 月 1 日から 8 月 31 日の期間の LNG 貯蔵、気化、輸送網への送出的な容量が、平均 100 万 Btu 当たり 0.20 ユーロで販売された。年内の残りの容量は、後日オファーされることとなるとのこと。

ドイツ DET (Deutsche Energy Terminal) 社は、2026 年 4 月 18 日、Wilhelmshaven 2 LNG 基地で同月 18 - 24 日、定期的なメンテナンス・修繕作業が実施されることを発表した。このため FSRU Excelsior が数日間、沖合に移転する。同時に港湾運営会社 Niedersachsen Ports が棧橋水深を確保するために着棧領域の浚渫作業を実施する。

スペイン Enagás 社は、2026 年 4 月 21 日、フランス Teréga の 31.5%を GIC から買い取ることで合意したことを発表した。Teréga はフランス南西部で営業し、ガスパイプライン 5,100 km、地下貯蔵設備 2 件を持ち、同国ガス輸送網の 16%、貯蔵容量の 27%を占める。Teréga 輸送網は国際接続線 2 本で Enagás 輸送網と接続している。この買い取りは 2026 年完了見込みとしている。Enagás はまた Enagás Renewable の 40%の Hy24 への売却を完了し、残り 20%を維持している。Enagás Renewable の 2019 年創設以降、その所有の目的はスペインでの再生可能水素部門の開発を促進、初期的段階での成長を支援、バイオメタンの促進であった。今回の発表によると、2026 年第 1 四半期の天然ガス需要に輸出用を合わせた輸送需要は 103.2 TWh (68.27 万トン) に達し、前年同期比 4.2%増となった。この期間にスペインの天然ガス需要は 3.0%増加し、発電用ガス需要が 24.0%増で牽引した。輸出は 15.6%増加した。バンカリングを中心に船舶への積み込みが牽引、欧州向けパイプライン輸出が増加した。

スペイン HAM グループは、2026 年 4 月 29 日、自社の再充填ステーションのネットワーク全体にて、5 月中にバイオ LNG、バイオ CNG の提供を実施し、2025 年末に発表した自社ネットワーク全体へのバイオメタン利用拡大を完了することを発表した。

Titan Clean Fuels 社は、2026 年 3 月 30 日の報道によると、グリーンエネルギー供給企業 TURN2X との間で、e メタンを海運業界に 2028 年から供給する契約を締結した模様。スペインのミアハダスにある TURN2X モジュラー型生産設備は、再生可能エネルギーおよび有機 CO₂ を、ISCC 認証の e メタンに転換する。これをガスパイプライン網に注入し、欧州の主要港湾に輸送する。

スペインの再生可能エネルギー企業 Elawan Energy 社は、2026 年 4 月 14 日、カステーリャ・イ・レオン州で計画する 15-MW グリーン水素プロジェクトに環境承認を得た、と述べた。TordesillasH₂ プロジェクトは 2.5-MW 電子交換膜メンブレン (PEM) 電解質装置 6 基を用い、年間 1,600 トンの再生可能水素を生産する。

丸紅株式会社は、2026 年 4 月 17 日、英国に本社を置き電力卸売・小売事業を行う 100%子会社の SmartestEnergy Limited (SEL) を通じて、スペイン、ポルトガル（総称して「イベリア」）およびメキシコ・ブラジル・チリなどの中南米において電力・ガス卸売・小売事業を推進している Factor Energía, S.A. (FE) の株式 85%を約 204 百万ユーロ（約 375 億円）で取得したことを発表した。

ギリシャ AKTOR 社は、2026 年 4 月 28 日、自社 100%子会社 AKTOR LNG USA とアルバニアの 100%国有天然ガス企業 ALBGASZ が米国からの LNG 売買に関して長期のコマーシャル契約を締結したことを発表した。この 20 年契約では、AKTOR LNG

USA が ALBGAZ 向けに 2030 年から年間 1 BCM を供給するものとしている。やはり AKTOR 100%子会社 AKTOR ENERGY USA がアルバニアのインフラストラクチャ・エネルギー省と、同国での 380 MW 容量を持つ天然ガス火力発電設備を含む統合型エネルギーハブの開発・建設・操業についてスタディを行う MoU(覚書) を締結した。この発表によると、同プロジェクトは米国政府に支持されているとのこと。

NewMed Energy 社は、2026 年 4 月 9 日、キプロス第 12 鉱区 Aphrodite 資源からの可採天然ガス全量の販売について、Aphrodite 資源保有者、Cyprus Hydrocarbons 社 (CHC) とエジプトガス企業 Egyptian Natural Gas Holding Company (EGAS) との間でタームシート (基本条件合意書) がイニシャル (基本合意) されたことを報告した。同時にエジプト政府との間で同国沖の EGAS へのガス輸送パイプラインシステムの開発に関して、ホスト政府協定 (HGA) もイニシャルされた。同資源層の参加企業、持分は Chevron Cyprus 社 35%、BG Cyprus 社 35%、NewMed Energy 30%である。

セルビアの防衛省は、2026 年 4 月 5 日、自国とハンガリーを結ぶガスパイプラインの近くで大量の爆発物が発見されたと述べた。

スロバキア法務相によると、同国政府は 2026 年 4 月 24 日に、欧州議会・理事会による 1 月 26 日のロシア産天然ガス輸入フェーズアウト、ロシア産原油輸入終了準備に関わる規制に反対する訴訟を提起した、とのこと。

欧州委員会は、2026 年 4 月 23 日、対ロシア第 20 次制裁パッケージを EU 加盟諸国が採択したことを発表した。EU 企業がロシア企業との長期契約打ち切りを可能とする LNG 基地業務禁止、フランス Damen ・デンマークのオデンセ Fayard などのシップヤードでのロシア LNG 輸送船舶・砕氷船舶のメンテナンス禁止、ロシア船団へのタンカー売却の禁止が含まれる。

中国石油天然气集团有限公司 (CNPC) は、2026 年 4 月 20 日、トルクメニスタンでの Galkynysh ガス田プロジェクト第 4 フェーズ (復興気田四期) が起工したことを発表した。

[南米]

Excelerate Energy 社は、2026 年 3 月 27 日、New Fortress Energy 社 (NFE) と、Excelerate が NFE のジャマイカでのビジネスを買い取る契約を締結したことを発表した。Montego Bay LNG 基地、Old Harbour LNG 基地、Clarendon 熱電併給 (CHP) コージェネレーション設備が対象となる。Excelerate は現状有効な全ての契約を引き取る見込み。

Baker Hughes は、2026 年 4 月 7 日、アルゼンチンで San Matias Pipeline 社から天然ガスパイプラインプロジェクト向けにガス圧送ユニット 3 基を納入する受注があったことを発表した。この受注は、3 基の遠心圧縮機を搭載した NovaLT™16 ガスタービン 3 基、試運転サービス、予備部品、特殊工具、遠隔監視・診断機能で構成される。このユニット設備はリオネグロ州アレン近くのガス圧縮ステーションに設置され、Vaca Muerta 層からサンマティアス湾への専用パイプラインでの天然ガス輸送を支援し、Southern Energy の浮体式 LNG 船舶 2 隻に原料ガスを供給する。このプロジェクトは、Baker Hughes の NovaLT™ ガスタービン技術の南米での初活用ともなる。

アルゼンチン Energía Argentina は、2026 年 4 月 23 日、同 15 日に実施した国際公開入札で LNG カーゴ 1 件を Naturgy Aprovechamientos 社に決定、5 月第 2 週に Escobar FSRU (浮体貯蔵・気化設備) での引き渡しとなる、と発表した。

Camuzzi Gas Inversora 社は、2026 年 4 月 27 日、Vitol 社との間で、Camuzzi が所有している LNG del Plata プロジェクトからの引き取り契約、出資参加可能性に関して検討する MOU (覚書) を締結したことを発表した。LNG del Plata はブエノスアイレス県プラタ港湾に位置し、容量年間 240 万トン以上を持つ見込み。

チリのエネルギー省は、2026 年 4 月 13 日、Gas Valpo がコキンボ州、ラセレーナ州でパイロットプロジェクトを開始、グリーン水素を天然ガス配給網に注入し 4,600 件程度の家庭に届けている、と述べた。

Subsea7 社は、2026 年 4 月 7 日、PETRONAS Suriname E&P 社と、Subsea7 ・ SLB OneSubsea 間の Subsea Integration Alliance (SIA) との間での戦略協力協定の締結を発表した。

[グローバル]

SGMF は、2026 年 4 月 12 日、LNG に関する最新版のライフサイクルアセスメント (LCA) を発表した。伝統的海洋燃料と比較して温室効果ガス (GHG) 排出の大幅削減を示すものとしている。

DNV は、2026 年 4 月 14 日、LNG 燃料対応船舶が排出管理基準の強化に対応するため、今後数十年間低温室効果ガス (GHG) メタンの需要の増加が見込まれる、と述べた。

Cedigaz による *Global Hydrogen Market 2026 Assessment* 報告書は、初期の野心的なビジョンから、投資成長の鈍化、プロジェクトの中止、そして大きな資金面の障害を伴う「厳しい現実」への移行を描写している。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp